

March 8, 2026

わたしをだれと言うか マタイ 16:13～16

16:13 さて、ピリポ・カイサリアの地方に行かれたとき、イエスは弟子たちに「人々は人の子をだれだと言っていますか」とお尋ねになった。

16:14 彼らは言った。「バプテスマのヨハネだと言う人たちも、エリヤだと言う人たちもいます。またほかの人たちはエレミヤだとか、預言者の一人だとか言っています。」

16:15 イエスは彼らに言われた。「あなたがたは、わたしをだれだと言いますか。」

16:16 シモン・ペテロが答えた。「あなたは生ける神の子キリストです。」

イエスが宣教活動をなさったのは、3年半と言われています。ガリラヤで「悔い改めなさい。天の御国が近づいたから」（マタイ 4:17）と、第一声を上げられたイエスは、各地で病人を癒やし、奇跡を行い、人々を教えました。翌年には、弟子たちの中から12名を選んで、「使徒」とし、彼らを訓練されました。

イエスの宣教の3年目の夏、イエスは12弟子だけを連れてピリポ・カイサリアに行かれました。ここは、ガリラヤ湖から北へ40マイルほど、ヘルモン山のふもとにある町で、現在は「バニアス」と呼ばれています。この洞窟から湧き出す水はガリラヤ湖の水源となっており、現在も国立公園として保存されています。ヘロデ大王の息子の一人ピリポの領地でしたが、ローマ人やギリシャ人が住む、ユダヤから見れば、外国の地でした。

イエスと弟子たちはいつも大勢の人たちに取り囲まれていた

ので、暑苦しい夏の間、涼しいピリポ・カイザリアで過ごすことができたのは、とてもよい休みになっただろうと思いますが、イエスが弟子たちをここに導いたのには、他に目的がありました。それは、弟子たちを信仰の告白に導くことでした。

一、最初の質問

そこで、イエスは、弟子たちに2つの質問をされました。第一の質問は、こうです。「人々は人の子をだれだと言っていますか。」(13節)これは、答えるのに比較的簡単です。世論調査をして、人々の意見をまとめればいいだけです。弟子たちは4つの意見を挙げました。

最初は、「バプテスマのヨハネ」。バプテスマのヨハネはすでに、ヘロデ・アンティパスによって処刑されていましたが、イエスが力あるわざを次々に行っているのは、バプテスマのヨハネが生き返って、イエスに力を与えているからだと考える人が多くいたのです。

次は「エリヤ」です。旧約に、救い主が来る前に、エリヤのような力ある預言者が来ることが書かれているので(マラキ4:5)、イエスを「エリヤ」と見なす人が多くいました。しかし、実際は、バプテスマのヨハネが「エリヤ」で、イエスが救い主なのです。

3番目は「エレミヤ」でした。エレミヤはエルサレムと神殿の滅亡を涙を流して預言しました。イエスも人々の苦しみに心を寄せ、また、ユダヤの人々の頑固な心を嘆き、涙を流されました。それで、人々は、「涙の預言者」と呼ばれたエレミヤとイエスとを重ね合わせたのです。

4番目は「預言者の一人」という答えですが、1番目から4

番目までの答えはどれも、イエスを「救い主」とするものではなく、「預言者の一人」とするものでしかありませんでした。弟子たちが人々の意見を耳にして答えたものは、どれも、イエスについて正しい答えではありませんでした。

二、第二の質問

そこでイエスは第二の質問をされました。「あなたがたは、わたしをだれだと言いますか。」これは、第一の質問のように、見聞きしたことを答えればよいというものではありません。第二の質問では、自分自身の意見や確信が求められています。また、第二の質問では、「私」と「イエス」との人格の関係が問われています。弟子たちは、自分にとってイエスはどのようなお方なのかを答えるよう促されたのです。イエスが弟子たちにとって「ラビ」（教師）であることは分かりきったことですが、「あなたがたは、わたしをだれだと言いますか」との質問は、弟子たちに、イエスが預言者や教師以上の者であることを分からせ、イエスと弟子との関係を「師匠」と「弟子」の関係以上のものに導くことだったのです。

「あなたがたは、わたしをだれだと言いますか」との質問が大切なのはそのためです。それに正しく答えることによって、人は神との関係を回復し、救われるからです。よく、“Christianity is not a religion. It's a relationship.”と言われます。ほとんどの「宗教」は、戒律やしきたりを守り、善い行いに励むことを教えます。神仏に幸運を祈ることはあっても、深く神仏に信頼することはありません。神仏の慈悲を感じ、神仏を慕うなどといった人格の関係を教えられることもありません。しかし、聖書は、神と人との幸いな関係を、「わたしはあなたが

たの神となり、あなたがたはわたしの民となる」（出エジプト 6:7、レビ 26:12、エレミヤ 30:22、エゼキエル 36:28 など）との言葉で言い表しています。神は、私たちを愛して「神の民」としてくださり、私たちは、神を「私の神」と呼んで愛する——そこに救いがあり、幸いがあると教えているのです。旧約時代にはユダヤの人々が「神の民」と呼ばれましたが、今は、イエスをキリストと信じる者が「神の民」です。ですから、イエスをキリスト（救い主）と告白することが、大切なこととなるのです。ローマ 10:9 に「なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせたと信じるなら、あなたは救われるからです」とある通りです。

聖書は、神の口から出た神の言葉ですが、それはテレビやラジオのアナウンサーがマイクロフォンの前で語り、私たちがスピーカーからの音を聞くのとは違います。テレビやラジオの場合、アナウンサーと私たちとの間には何の人間関係もありません。しかし、神が私たちに語りかけてくださるのは、神が、聖書を読む「私たち」との間に、「わたし」と「あなた」、「あなた」と「わたし」という人格と人格との関係を結ぶためなのです。それは、「愛の関係」です。マラキ 1:2 には、神はイスラエルの人々に、「わたしはあなたがたを愛している」と言われたのに、人々は「どのように、あなたは私たちを愛して下さったのですか」と答えたと書かれています。人々は、神の愛を疑い、神の愛の呼びかけに耳を傾けなかったというのです。神との人格の関係、愛の関係の中で神の言葉を聞く、神から「私」への愛の呼びかけとして受け止める。それは神が私たちに求めておられることですが、ユダヤの人々はそれを律法とし

て、文字として研究するだけで終わったのです。それは、私たちも陥る過ちです。聖書を客観的に読み、調べることは大切です。しかし、それだけで終わるなら、それは正しい聖書の読み方とは言えません。私たちは、聖書を神から私への愛の言葉として受け取り、それに答えることを目指して聖書を読み、学んでいます。

三、ペテロの答え

「あなたがたは、わたしをだれだと言いますか。」この問いに真っ先に答えたのはペテロでした。「あなたは生ける神の子キリストです。」イエスは神との関係では「神の御子」、人との関係では「キリスト」（救い主）であると答えたのです。

かつて、ペテロと他の弟子たちは、ガリラヤ湖で嵐に遭い、舟が沈みそうになったことがありました。弟子たちがイエスに助けを求めたとき、イエスは風を叱り、嵐を鎮められました。そのとき弟子たちは、「いったいこの方はどういう方なのだろう」（マタイ 8:27）と驚き、また、イエスがだれであるかを真剣に考え始めました。そして、ペテロは、イエスの質問を受け、このときとばかり、自分が見出した答えを口にしました。

イエスはその答えに満足され、「バルヨナ・シモン、あなたは幸いです」（17節）とペテロを祝福されました。しかし、ペテロが、そのように告白できたのは、ペテロが自分の力だけではありませんでした。イエスはペテロを、もとの名、「バルヨナ・シモン」と呼んでおられます。それは、ペテロの告白が「血肉」から出たものではないことを教えるためでした。この「血肉」の中には、ユダヤの家系や伝統も含まれています。ユダヤでは、人を呼ぶとき、父親の血筋をたどって、「誰その

子、誰それ」というように呼んできました。そうすることによって、自分たちの先祖はアブラハムにまでさかのぼる、自分たちは「アブラハムの子」であると誇っていたのです。しかし、ペテロがイエスを神の子、キリストであると知り、信じ、そう告白できたのは、ペテロがユダヤ人であったから、ユダヤの伝統を持っていたからではありませんでした。それは、神の恵みでした。イエスが「このことをあなたに明らかにしたのは血肉ではなく、天におられるわたしの父です」（17節）と言われたように、人を信仰の告白に導くのは、神の恵みです。

そして、神はこの恵みを、すべて求める人に与えてくださいます。私たちは、直接イエスの声を聞き、その姿を見ていませんが、イエスが私たちの罪を背負って十字架が死なれ、私たちを救うために復活され、私たちを導き、守ってくださっていることを知っています。イエスを肉眼で見えてはいませんが、信仰によって見上げ、使徒信条にあるように、イエスを「神の独り子」、「我らの主」、そして、「キリスト」と告白しています。コリント第一 12:3 に「また聖霊によるのでなければ、だれも『イエスは主です』と言うことはできません」とある通り、信仰の告白は「血肉」ではなく「聖霊」によるものです。そして、聖霊は、すべて信じる者に与えられる恵みの賜物なのです。

生まれつきの私たちは「ヨナの子シモン」です。生まれつきの人間の力だけでは、イエスの「わたしをだれと言うか」との質問に正しく答えることはできません。聖書を知識として研究するだけでは、せいぜい「イエスは神の子、キリストと呼ばれていました」としか言うことできないでしょう。しかし、自分が、罪の中にあり、人生に迷い、人を愛することのできない者

であることを示され、そんな「私」にも、イエスが愛の言葉で呼びかけてくださっていることが分かる時、神は私たちに、人間の知恵や力ではできない告白、「あなたは生ける神の子キリストです」との告白へと導いてくださいます。この告白には決心が必要で、勇気がいるかもしれませんが、神はそれも与えてくださいます。

使徒たちはこのあと7ヶ月して、イエスの十字架を体験することになります。イエスが捕まえられたとき、ペテロはイエスを否認し、他の弟子たちもイエスを見捨てて逃げました。しかし、彼らは、その罪や失敗を乗り越え、再び立ち上がりました。それはこの時の信仰の告白が彼らを支えたからです。同じように、この信仰告白は、私たちを確かな人生に導きます。迷うことがあっても正しい道、幸いな道へ導いてくれます。失望や落胆があっても、そこから引き上げてくれます。恐れに取り囲まれることがあっても、それを打ち破ってくれます。聖書にこうあります。「世に勝つ者とはだれでしょう。イエスを神の御子と信じる者ではありませんか。」（ヨハネ第一5:5）「あなたは生ける神の子キリストです」との信仰の告白には力があります。この週も、この告白によって、日々に信仰の勝利を体験したいと願います。

（祈り）

父なる神さま、イエスが弟子たちになさった質問は、今も、私たちに問われています。世界に、また、身の周りに起こるさまざま出来事を通して、「あなたはわたしをだれと言うか」と問われるとき、それに正しく答えることができますよう、助けてください。それによって世に勝つ、信仰の歩みができるよ

う導いてください。あなたの御子、私たちの救い主、イエス・キリストのお名前で祈ります。